

〔窓の須佐美〕故の笹山の祖君青山大藏幸成、幸成蓋忠成、誤從四位侍從の許に客あり、菓子をつみて出しけるに、客歸られけるを過て、常にはうちの方より直に歸られけるが、いかゞ有けん、もとの道より入なんと有けるに、若者ども彼菓子をうち散し、喰などし、すべき様なくして、其儘うづくまりしかば、打笑て菓子に心にまかされよ、鉢は秘藏のものぞ、わられなと云、入られけり、

〔男色大鑑八〕執念は箱入の男

其後に水溜て深き鉢に櫻の花を浮て、生貝を角切にして、先細の箸を添て出せ、色座敷は仕掛ばかりの物ぞ、錢三十の物が小判貳兩になるを知らずや、略下

〔好色一代女六〕暗女晝化物

されども手の届棚のはしに、略中 堀江焼の鉢に飛魚の干物、略中 絶えず取肴のある事ひとつな

る客は是も喜悅也

〔新撰字鏡竹〕箸上古狹反、箸、下丁庶反、飯鼓也、筴也、亦取也、顯也、二字波志策同

○按ズルニ、飲食具ノ箸ハ治據切ナリ、而シテ戰國策ニ、智伯曰、兵箸晉陽三年矣トアリ、又列子仲尼篇ニ、形物其箸トアル箸ハ、直略切ナリ、爰ニ丁庶反トアルハ、蓋シ誤ナラン、

〔倭名類聚抄十四〕箸厨膳具唐韻云、筴遲倨反、和名波之也、字亦作箸、兼名苑云、一名扶提、

〔箋注倭名類聚抄六〕箸厨膳具廣韻、箸、匙、箸、說文、箸、飯鼓也、廣雅、筴謂之箸、玉篇、箸、筴也、飯具也、即此義、玉篇又載、筴云、匙、筴與箸同、按說文、無、筴字、又借箸、明附箸字、遂爲借義、所奪、後人作、筴字、以爲、匙、箸字也、玉篇於箸字下、不云、或作、筴、別出、筴字、恐後人所增、略中 按禮記、曲禮、羹之有菜者、用、挾、注、挾、猶箸也、今人或謂、箸爲、挾、提、兼名苑、蓋本之、急就篇注、箸一名、挾、所以、挾、食也、王應麟曰、字從、木、則從、木、似是、然、說文、挾、檢、柶也、挾、俾、持也、二字不同、則知、挾、提之、挾、古從、手、後人從、木、以、別、俾、持字、故王氏曰、从、木、遂與、檢、柶字混也、